

日本聖公会
**ウィリアムス
 神学館ニュース**

聖歌を歌う、言葉と出会う

～信仰共同体の旅～

グレイス 辻 彩 乃

ウィリアムス神学館の「教会音楽」を担当するようになってから六年目を迎えました。様々なアプローチで聖歌に迫ろうと、毎回思考錯誤しています。聖歌の練習はもちろん欠かすことができませんし、一方、その背景や歴史を知ることでも大切なことです。また、「聖歌集」についての知識や、聖歌の選曲方法と実践、さらには楽譜を読むための楽典やソルフエージュなども必要です。いずれにせよ最終目標は、遣わされていく現場において聖歌の持つ力を存分に発揮させること。そして礼拝をより豊かにすること。それらを神学生の皆さんに期待しています。

さて先日、『塵のなかに素足で ある賛美歌詩人の世界』（日本キリスト教団出版局）という本を読みました。著者であるブライアン・レンはイギリス・ウエールズ会衆派（後の合同改革派）教会の牧師で、二十世紀後半のヒム・エクスプロージョンと呼ば

2016年
 第94号

The Bishop Williams
 Theological
 Seminary NEWS
 日本聖公会
 京都教区
 発行・編集人
 吉田雅人
 〒602-8011
 京都市上京区烏丸通
 下立売上る桜鶴門町 380
 ☎ 075(431)5406
 FAX 075(431)5445
 Williams@muc.
 biglobe.ne.jp
 寮 ☎075(431)5408

れる英語聖歌・創作運動の中心人物でもあります。ブライアン・レンが作る聖歌の詩は、発想の豊かさや、現代社会に必要なテーマ（環境問題、労働問題、社会問題など）への光の当て方において群を抜いており、「チャールズ・ウエスレー以後、最も優れた英語聖歌作家」と評価されることもあります。『日本聖公会 聖歌集』には六曲が収録されています。レンは前述の著書の中で、「賛美歌は、歌う人たちを賛美や祈りや感謝や嘆きの旅に連れ出すことができる」と述べています。一節から最終節へと歌い終わるとき、スタートとは明らかに違う終着駅に着いているというのです。歌の中で言葉に出会い、いろいろな景色を眺め、気づき味わう霊の旅。そしてその旅は一人旅ではなく、礼拝に集められた会衆全体による「信仰共同体の旅」なのです。さらにブライアン・レンは「良い賛美歌とは、たくさんの鳥が巣を作ることができる大木のようなもの」と表現しています。聖歌の持つメッセージを一人一人が掴みとり、その聖歌の中で心と声を合わせて互いに響きあい、それらは一体となって神に語りかける信仰

共同体の歌となるのです。

礼拝の中で聖歌が十分に活かされるとき、驚くほどの効果が生み出されます。三年間の神学校生活の中で、神学生達が聖歌をゆつくりと味わい、日々新たな発見をして欲しいと心から願っています。

（つじあやの・教会音楽担当）



最近期せずして法憲法規、より根本的には教会法について考えさせられることが多い。そして、教会法に特徴的なものは、そこに教会論（そして職制論や聖霊論）が表現されているというところである。歴史には礼拝式文のルブリックから発展して教会法が形成された。祈祷書もまた教会法の一形式といえるし、そこにもやはり聖公会の神学とりわけ教会論が表明されていることは言うまでもない。また、日本聖公会の法規には、実体法（用語・概念を定義する）がほとんどなく手続法で占められておりそれは一つの課題であろうが、しかし、その手続のうち、まさに聖公会の教会論（教会は合議体でありその合議の過程に聖霊が働くという理解）が表明されているのである。そうした理解があれば、例えば教区主教というものも、単に権力機構の「長」ましてや「専制君主」などというものではなく、聖霊の働きの内に教会の職務を普遍的に、人格を通して代表しているということも容易に了解しうることであろう。そして、もしそうした理解が欠如していれば、それこそ「道を伝え」ずして「己を伝え」ることになってしまおうのではないだろうか。神学教育において「法」を適切に学ぶことの重要性を痛感する昨今である。

（黒田 裕）

二〇一五年度 **卒業礼拝**
 ― 二名が新たに牧会現場に ―

三月一日(金)午前一一時より、二〇一五年度ウイリアムス神学館卒業礼拝が京都教区主教座聖堂で百五十名以上の方々と共に行われました。今年度は、アンデレ江渡由直(えとよしなお) 聖職候補生(京都教区)とテモテ遠藤洋介(えんどうようすけ) 聖職候補生(神戸教区)の二名が、神学館での一年間また三年間の学びを終えて巣立られました。

説教者の中村 豊神戸教区主教は、工藤信夫氏の「信仰の陥りやすい、そして致命的な誤りは、一定の神学や政治的態度のような固定した確信、つまり、一つの私事としての信仰にしてしまうことです。信仰の本来の姿は、自己執着に基づく計画や希望から脱却することであり、誠実に迷いに常駐すること」と言う言葉を引用しながら、私達が陥りやすい危険について警告されました。

そしてイスカリオテのユダの足をも洗われたイエス様に思いを馳せ、これこそ神の愛、神の憐れみであったと述べられました。即ち神の愛とは、相手を理解するとか相手を赦すということではない。私が主体となり、ちょうど善いサマリヤ

卒業礼拝終了後の記念撮影



人の譬えに出てくる律法学者のような視点で相手を見つめているだけでは、結局ゆがんだ人間関係の修復とか平等な人間関係を打ち立てる努力にしか過ぎない。そうではなく、ご自身を裏切ることを知っていたにもかかわらず、そのイスカリオテのユダの足をも洗われたイエス様の

ありようこそ、私達の手本とすべきだと語られました。

その上で、これから宣教に従事する私達が、信徒との人間関係における苦悩の中にあつて、復活のイエスと私たちとの愛の関係に生きるとき、牧会者としての喜びと恵みが同時に与えられる、と述べられました。

その後、列席教員全員によって祈りが献げられ、館長より卒業証書・修業証書が渡されました。

式後は会場を京都教区センターに移し、多くの方々からのお祝いや励ましの言葉、そして心づくしのごちそうをいただきました。

二人の方々の今後のお働きの上に、神様の祝福と導きをお祈りください。

今年の卒業生は何処に？



卒業生からの手紙

神学館を卒業して

テモテ 遠藤 洋介



主の平和
皆さまの
日々のお祈りとお支え
りによって、今年
の三月に
ウィリアム
ス神学館を
卒業させていただき
ました。この場をお
借りしまして感謝申
上げます。

私にとって神学館での三年間は授業で学んだ神学の勉強以外にも多くのことを学ばせていただきました。それはお祈りの大切さ、神さまを通して人と出会うこと、誠実な牧会を心がけることなどです。私はこの四月から広島復活教会で勤務をさせていただいております。実際に勤務をさせていただき、教会の現場では神学生の間に想像していた以上のことが

度々求められ、正直戸惑うことも多々ありますが、神さまのお導きを信じて、日々の祈りの中で霊的な成長をさせていた、だいてるように思います。

今は、少しずつですが勤務の流れにも慣れてきて、教会の中でも様々な宣教の働きに関わらせていただいております。今はゆつくりでも、とにかく一つ一つの働きを大切にして、神学館で学んだことを覚えて、日々祈りながら、正直で誠実な牧会像をしっかりと心がけていきます。どうか、これからも引き続き皆さまのお祈りに覚えていただき、成長していくことができたと思います。

(神戸教区聖職候補生・広島復活教会勤務)

新任地にて

アンデレ 江渡 由直



まず、皆さまの祈り、お支え、導きにより、神学館での学びを三月に終えたことに感謝いたします。

昨年の入学式では、吉田館長から「満を持しての入学」との説教、励ましをいただきました。そして、駆け足で神学館の一年が過ぎ、新しい祈りの場、仕える場として、桑名エピファニー教会と四日市聖アンデレ教会に派遣されているこの時も感謝しております。さて、新任地で一ヶ月が経ちました。信徒の皆さまの名前も自然に呼べるようになりましたが、「江渡先生」には少し戸惑っています。地理的にも桑名・四日市だけでなく、九月の「京都教区信徒の集い」が三重伝道区主催のため、準備会で伝道区の他の地域の教会、準備委員の方々との交わりも始まっています。当然、牧師館(桑名)のご近所ともお付き合いが始まりました。特に現場に出て感じたことは、神学館以上に時間の流れが早いことです。神学館のように八五分ごとの定時に追われることはありませんが、一日が早く、一週間も早いと感じる日々を過ごしています。そして、五月には信徒の方をみ手に委ねる場に立ち合いました。現場は実践の場だと感じ、改めて奉仕職への覚悟ができました。多忙な日々が続きますが、朝・昼・夕の祈り、そして仕えることで、課題を一つ一つ取り組み、奉仕職への道を歩んで参ります。感謝。

(京都教区聖職候補生・桑名エピファニー教会)

四日市聖アンデレ教会勤務

ウィリアムス神学館での二七日間

ペテロ 李 景齊

桜満開だった横浜から四月四日京都に移動しました。新幹線で二時間でしたが、人も、建物も、多くのものが異なるというのが京都の第一印象でした。準備不足でスケジュールが決まっていた状態が京都に到着しましたが、京都教区と神学館の吉田館長、黒田副館長、そして久しぶりに再会した松山神学生の助けによって充実した実習になりました。

京都での実習は、神学館で生活したということに最も大きな意味があります。礼拝をお捧げし、掃除、朝食の準備、授業を共に聞きながら短い時間ではありますが、仲良くすることができ、また互いの生き方について分かち合うことのできる尊い時間になりました。日本語がもう少し上手であれば、もっと深い話し合いができたでしょうが、同じ神学生として聖職への不安、教会について思う心は言語や国家とにかかわらず、私たちが聖公会の共同体であるということを知ることができました。

大韓聖公会神学生、神学館で研修

4月3日～30日の間、聖公会大学神学大学院生のお二人が、海外インターンシップ課程として、聖職候補生との出会いと神学校生活体験、在日韓国・朝鮮人に対する教会の支援活動を学ぶ等を目的に研修されました。

訪問することのできた東九条とウトロ地区において出会うことのできた在日同胞一人の方々が話してくれたこと、奈良基督教会と大阪聖ガブリエル教会、大阪での四・三事件の慰霊祭が記憶に残っています。特にウトロ地区において出会ったハルモニの歌を忘れることができません。忘れずにお祈りしたいと思います。

最後に、実習を受け入れてくださった京都教区の高地主教様と教区のみなさま、ウィリアムス神学館の吉田館長、黒田副館長、生野センターの呉光現氏、そして苦楽を共にする神学生のみなさんに感謝します。主の平和がいつも共にありますように。

(リ・キョンジエ)

共に学び、共に励む

ラファエル 黄 潤夏

異なる国において、私と同じように学び、同じ道へと進もうとする人びとの生活を体験することは非常に有意義なことでした。ウィリアムス神学館においての生活は、私にとって非常に良い思い出となりました。毎日礼拝を共にし、授業で学び、交流することのできた時間は、韓国における学校生活を再び振

り返ることのできる機会であると同時に、少しではありますが日本聖公会を理解する良き時間でありました。

特に新学期のオリエンテーションと授業の内容が実用的であり、非常に几帳面に行われることに驚きました。毎日共にする朝食もやはり印象的でした。単純にメニューが印象的であったのではなく、食事を共に準備し、後片付けをするプロセスが神学校における共同生活の意味を現している有意義な時でありました。

過ごさせていたいただいた期間、多くの援助してくださった吉田館長と教職員のみなさま、そして本当に同僚のように親切に細かく気遣いをしてくれた神学生のみなさんに感謝しています。今後も日韓聖公会がより多くの交流を通して互いに分かり合い、互いの必要を充たし、共に生きて歩む教会になることを切に望んでいます。

(ファン・ユナ)



▶ 右・李景齊神学生、左・黄潤夏神学生

二〇一六年度 **入学礼拝**
 二名が新たな学びを共に

四月六日(水)午前十一時より、二〇一六年度ウィリアムス神学館入学礼拝が、京都教区主教座聖堂(聖アグネス教会)で約六〇名の方々の臨証を得て行われました。今年度、入学されたのは宮田裕三さんと永野拓也さん(いずれも神戸)の二名です。館長は説教の中で、ご復活のイエスさま



ナザレの修女様たちと

に独りで会つた時に疑いの内にあったトマスが他の弟子たちと一緒に疑い、ひいて、ことを変化した疑いや迷いが

あつてもいい、しかしそれらを独りで背負い込むのではなく同道の仲間と分かち合つてほしい、と語り掛けました。その後、新入生は誓約をし、教員たちの祈りのうちに入学を許可されました。式後は教区センターでささやかな祝会がもたれました。

翌日から、神学生達は東京のナザレ修女会修道院で、菅原裕二司祭(東京教区)の指導のもとでトリトリートを行いました。二日目からは西原廉太司祭の講演「神学すること」について共に考えたり、バイブル・シェアリングを通して、新学期に向けての準備の時を持ちました。

お世話になります **教会実習**

今年度も教会実習でお世話になります。よろしく願っています。

- 3年生 ルカ 柳原健之 京都復活教会
- セシリア塚本祐子 石橋聖トマス教会
- アンデレ松山健作 川口基督教会
- 2年生 ヒューム・W・ユーン 京都聖ステパノ教会
- バルナバ永野卓也 神戸聖ミカエル教会
- 1年生 ルカ 宮田裕三 聖光教会

今さら聞けない **キリスト教講座_3**

今さら聞けないキリスト教講座3が4月からスタートしました。今年度は菊地伸二先生による、「キリスト教の歩み」です。今年度からインターネットによる動画視聴も可能になりました。今からでも申し込みができます。ご希望の方は、神学館ホームページ(<http://bp-williams-seminary.org/>)の「お問い合わせ」から申し込みます。

聖職叙任おめでとうございます

卒業生の聖職按手式が行われました。今後のお働きに神様のお導きを祈ります。

- 4月9日(土)、京都教区主教座聖堂で、パウラ麓 敦子聖職候補生が公会の執事職に叙任されました。
- 5月20日(金)、横浜教区主教座聖堂で、パウロ窪田真人聖職候補生が公会の執事職に叙任されました。
- 5月21日(土)、東北教区主教座聖堂で、パウロ渡部 拓聖職候補生が公会の執事職に叙任されました。
- 6月25日(土)、京都教区主教座聖堂で、セシリア大岡左代子執事が公会の司祭職に叙任されました。

2016年度授業紹介

文獻講読 (1年)	司祭 黒田 裕	教理学 I (2年)	司祭 岩城 聰	礼拝学 III (3年)	司祭 吉田 雅人
英書講読 (1年)	司祭 岩城 聰	聖公会論 (2年)	司祭 岩城 聰	説教論 (3年)	司祭 黒田 裕
哲学入門 (1年)	菊地 伸二	日本キリスト教史 (2年)	司祭 大塚 勝	牧会学 (3年)	司祭 吉田 雅人
旧約入門 (1年)	勝村 弘也	礼拝学 II (2年)	司祭 吉田 雅人	今日の宣教 (3年)	黒田司祭・吉田司祭
新約入門 (1年)	嶺重 淑	ギリシア語 II (2年)	菊地 伸二	法憲法規特講 (3年)	司祭 浦地 洪一
教会史 (1年)	菊地 伸二	臨床牧会訓練 (2年)	日本バプテスト病院	憲法法規特講 (3年)	司祭 浦地 洪一
礼拝学 I (1年)	司祭 吉田 雅人	①フテン語 I (2年)	菊地 伸二	②ギリシア語 III (3年)	司祭 下田屋 一朗
ギリシア語 I (1年)	主教 高地 敬	②ヘブライ語 I (2年)	司祭 下田屋 一朗	③ヘブライ語 II (3年)	司祭 下田屋 一朗
バイコン I・II (1・2年)	司祭 黒田 裕	旧約釈義 (2・3年)	勝村 弘也	教会音楽 (全学年)	辻 彩乃
		新約神学 (2・3年)	前川 裕	聖書研究 (全学年)	吉田司祭・黒田司祭
		教理学 II (3年)	司祭 岩城 聰	夏期実習 (全学年)	吉田司祭・黒田司祭
		キリスト教倫理学 (3年)	シユペネマン	※ 旧約神学・新約釈義・ラテン II は休講	

神学館の三学期

- ☆1月7日(木)、入寮
- ☆1月8日(金)、リトリート
- ☆1月10日(日)、他教派礼拝
- ☆1月12日(火)、3学期授業開始
- ☆1月13日(水)、法憲法規特別講義(浦地司祭)
- ☆1月16日(土)、3学期教会実習開始
- ☆2月4日(木)、入学試験、2名が受験
- 特別講演・ジョン・イエー教授(山上の説教・一般公開)
- ☆2月11日(木)、牧会学特別講義(麓候補生)
- ☆2月24日(水)、卒業小論文発表会
- ☆2月27日(土)、3学期授業終了

聴講生

- ☆3月1日(火)〜5日(土)、試験週
 - ☆3月11日(金)、卒業礼拝
 - ☆3月18日(金)、第2回理事會
 - ☆3月31日(木)、3学期教授會
 - ☆4月2日(土)、「今さら聞けない」最終回
- 今年度は次の方々が神学館の授業を熱心に聴講しております。
- 奥村貴充司祭(大阪教区)がCPEを、辻彩乃さん(大阪教区)が礼拝学IとIIIを、永野園子さん(神戸教区)が礼拝学Iと聖公会論を、野間光顕さん(神戸教区)が礼拝学I・説教論・CPEを、宮脇温子さん(京都教区)が教理学Iを、聴講しております。

✠主の平安をお祈りいたします

- *二〇一六年一月十一日(月)、本館卒業生のインマヌエル古川潤児司祭が逝去されました。
- *二〇一六年一月二十六日(火)、本館卒業生のパウロ井上進次司祭(大阪教区)現役が逝去されました。
- *二〇一六年二月二三日(火)、本館卒業生のパウロ梅本芳哉司祭(東京教区)退職が逝去されました。
- *二〇一六年三月二三日(水)、本館卒業生のテモテ佐藤光道司祭(東北教区)退職が逝去されました。
- *二〇一六年六月十一日(土)、十八年に渡り神学館の調理を担当してくださりましたマリア小仲妙子さんが逝去されました。